



特別展

「近衛家の名宝 陽明文庫展」(平成20年10月25日[土]～11月30日[日])

林原美術館 館長 熊倉 功夫



近衛家懲遺愛茶杓筆筒 後西天皇他作 陽明文庫所蔵

今秋開かれる「近衛家の名宝 陽明文庫展」には国宝の藤原道長自筆日記「御堂関白記」をはじめ国宝七点、重要文化財九点を含む約六〇点の名宝が陳列され、近年稀な大展覧会となります。その中には、数は多くありませんが近衛家

の茶道具がありますので少し紹介しましょう。

今から約三〇〇年前の当主近

衛家懲は、江戸時代を代表する文化人で、中国の法律から古筆の研究まで、博覧強記で有名な公家でした。趣味も多様でしたがその一つ

が茶の湯。生涯に、わかつてゐるだけでも三〇八会に及ぶ茶会を開いています。

今回の展観でまず茶の湯に関連するのは重要文化財の青磁鳳凰耳花入・銘千声です。澄みきった釉薬の色は誰もが魅了されます。家懲の茶会記に菓子器として登場する金磁瑠璃は、まるで金色の磁器引きのように思えますが、白磁の上に金彩をほどこした珍しい逸品です。中国のモダンな蓋物を菓子器に見立てたところに家懲の新取の気性がうかがえます。

遺愛の茶道具の中には楽家五代目の宗入の黒茶碗もありますが、何といつても注目されるのは茶杓筆筒でしょう。千利休、古田織部作など、実際茶会で使つた茶杓三一本を収める茶杓筆筒には、近衛家の茶の湯の伝統を感じられます。

国宝、重文のかげに隠れてしまいそうな茶道具ですが、どうぞお見逃しなくご鑑賞下さい。

企画展

◆企画展「数寄大名 池田治政」

(平成20年12月7日[日]～平成21年1月25日[日])によせて

川崎医療福祉大学 教授 神原邦男

池田治政は、岡山藩主として、特異な才能を發揮して活躍し、現代の岡山に素晴らしい文化を遺した人物である。代々の岡山藩主たちは、いずれも達筆である。なかでも一筆書の大文字は、治政独特の崎なる世界の文化である。

池田治政が、岡山に遺した種々の文化は、岡山城の北に造られた「後楽園」(当時は「御後園」)の生活のなかで創り出されたものである。明和四(一七六七)年六月四日に、はじめて岡山へ帰城してから、寛政六(一七九四)年三月八日に隠居するまで、財政難の藩政を領民たちの民意を踏まえ、治政の独創的発想で改革した。

財政難から維持管理する人件費に困る後楽園を、庭園内を緑観をもつ庭園に再生したのは、治政の功績である。その芝生の庭と御茶屋を使って行った治政の独創性あふれる茶は、岡山の茶の湯文化を盛んにし、全国各地から文化人や芸能人を集め、岡山城下町の発展をもたらした。隠居して



池田治政画像(部分)

江戸大崎屋敷に逗留していた時代を経て、還暦を迎えた文化七(一八一〇)年に岡山へ帰国し、文政元(一八一八)年十二月に後楽園で死去するまで、江戸より伴った側室筆野と一緒に、後楽園で茶の湯や芝居などを楽しみ、今回展示する「大文字」なども、この時期に後楽園で書いたものである。

元禄時代、池田綱政により創られた後楽園を中心とした岡山の江戸文化を、現代へ継承する役目を果たしたのは、池田治政である。

日本が誇る『源氏物語』が紫式部によって記されてから、今年でちょうど千年を迎えます。近世に制作された絵画・蒔絵や能楽関係資料から、『源氏物語』が日本文化に与えた影響を振り返り、私たちを魅了してやまない『源氏物語』がおりなす世界をご覧いただきます。

◆企画展「源氏物語の世界」

開催中～10月19日(日)

◆企画展「大名の装束－生活の美－」

平成21年2月1日(日)～3月22日(日)

池田輝政・利隆・光政。

綱政を中心に、備前池田家に伝来する藩主の衣装類や、婦人・子供の衣装を展示します。これまで知られていなかつた衣装類をはじめて一堂に紹介いたします。



雷文菱繋ぎに九曜紋文様縫表袴



石山月図(部分) 狩野尚信筆

新企画

友の会会員だより

当館の友の会がリニューアルしてから既に8年が経過しました。おかげさまで会員数は順調に増加し、近年は熊倉館長の陣頭指揮のもと、皆様に楽しんでいただける企画を毎年開催してきました。これまで「美術館NEWS」では、当館が行つたイベントの様子を、企画を立てた館員の視点からご紹介してきましたが、今回は参加していただいた友の会会員の方々に、感想をお寄せいただきました。これからも、友の会会員の方々と交流をはかると共に、より良い美術館運営を目指していきたいと考えております。

【桜見の会】に参加して

倉森 治

恒例となつた「お花見と館長講話」が四月五日土曜日、時期よく満開の桜の下で開催されました。

先ず、京都ルネサンス「京いち」が心を込めた点心に舌鼓を打ち、次いで裏千家流・數田宗枝先生とその社中のお手前による薄茶依する「くら」であるという「さくら」の語源や、茶花とは茶花という特別の花があ

【京都茶室巡りの旅】に参加して

内藤光子

当日は薄曇りの旅日和であつた。贊沢庵では数組に分かれて南側連子窓の外から内部を見せていただいた。二畳の空間に立たれた先生の説明を伺いながら、利休居



2008/06/1

始めて訪れた待庵では数組に分かれ南側連子窓の外から内部を見せていただいた。二畳の空間に立たれた先生の説明を伺いながら、利休居

士の創意と美意識が集約され、「茶の神髓とする心」がここに秘められていることを思い、四百年余の時を経た利休遺構の氣韻の中にはじめ立させていただいた。

バスは山崎から一路紫野大徳寺へ。五百余年の伝統ある「一久」にて精進料理を堪能した。「素朴の味のうちに百味具足せしめねば」の言葉を裏切らぬ、深々と感動を覚える味わいであった。食後に抹茶が出され、隣席の女性が両隣にお茶が行き渡るのを待つて挨拶され、そんな自然

な慎み深さに触れられたことも旅のよい思い出になつた。

最後に大徳寺の塔頭孤蓬庵に到着。昨年宗湛会茶会でご住職夫人の大変美しいお手前に心打たれた者として憧れがあつた。庵に入り、まず方丈前庭園の独特の意匠に目を瞠つた。続いて遠州晩年の茶室「忘筌」

丁度開催中の展示会は故橋本龍太郎元首相が蒐集した刀剣と、自身の撮影による写真の展示で、岡山ゆかりの元首相を偲ぶ機会に恵まれました。

るのではなく、その季の取り合わせこそが大切なのだという、目から鱗の落ちる、とても楽しいお話でありました。

丁度開催中の展示会は故橋本龍太郎元首相が蒐集した刀剣と、自身の撮影による写真の展示で、岡山ゆかりの元首相を偲ぶ機会に恵まれました。

今回私は、美術館と地域社会が融合し、文化交流の場となり、「飾り結び」の世界といえ、体験しながら日本文化や美術工芸に親しみワークショップに参加させて頂きました。初めて挑戦した訳ですが、田中年子先生の大変丁寧な指導のもと、本当に有意義な時間を過ごさせて頂きました。先生の苦労して日々のやわらかい語り口で、「サ」の神が憑依する「くら」であるという「さくら」の語源や、茶花とは茶花という特別の花があ

るのではなく、その季の取り合わせこそが大切なのだという、目から鱗の落ちる、とても楽しいお話でありました。

日本にこのような文化が存在した事を忘れない為にも、熊倉館長様他、スタッフの方々が実行して下さいました事に深く感謝申しあげます。合掌

【ワークショップ「陶芸教室」に参加して

川西由里子

藤原敬介先生の「古稀記念展」を拝見して備前焼の荒々しいイメージとは違つた、温かく優しい作品に感動し、先生にお会いできることを楽しみに参加しました。

茶の葉と熱湯を加え、7～8年熟成させて作られた「陶土」。お父様がお腹が痛い時にこの土を舐めて治されると聞き、驚きと深さを感じました。人と自然の力、



川西由里子

な慎み深さに触れられたことも旅のよい思い出になつた。

最後に大徳寺の塔頭孤蓬庵に到着。昨年宗湛会茶会でご住職夫人の大変美しいお手前に心打たれた者として憧れがあつた。庵に入り、まず方丈前庭園の独特の意匠に目を瞠つた。続いて遠州晩年の茶室「忘筌」

丁寧な指導のもと、本当に有意義な時間

を過ごさせて頂きました。先生の苦労して日々のやわらかい語り口で、「サ」の神が憑依する「くら」であるという「さくら」の語源や、茶花とは茶花という特別の花があ

るのではなく、その季の取り合わせこそが大切なのだという、目から鱗の落ちる、とても楽しいお話でありました。

日本にこのような文化が存在した事を忘れない為にも、熊倉館長様他、スタッフの方々が実行して下さいました事に深く感謝申しあげます。合掌

【ワークショップ「飾り結び」に参加して

高山憲三

に座し、先生に導かれて目にした手の込んだ砂摺天井、縁先の様式の斬新な明るさに魅せられた。

「山雲床」の小空間も印象深い。話題にされた龍光院も密庵席も私には初めて聴く名称で、忘れられない実りの多い旅であった。



高山憲三

今年度後半のイベント

今秋以降も、講演会・お茶会・ワークショップと多くのイベントを開催いたします。皆様の参加をお待ちしております。

ワークショップ

ゴム版教室「親子で年賀状を作ろう」

来年の干支である“丑”を題材に、親子で作るゴム版教室を開催します。作品が出来上がった人には修了証書をお出しします。

日時	10月19日(日) 13時～16時30分
講師	田主誠氏(彫刻家)
場所	林原美術館口ビー
対象	小学校高学年～中学生とその保護者
定員	15組(1組2名)
参加費	4,000円

特別講演会

特別展「近衛家の名宝」にちなみ、文庫長の名和修氏に陽明文庫所蔵の資料と、その魅力についてお話ししていただきます。

日時	11月1日(土) 13時30分～15時
演題	「陽明文庫 近衛家の名宝」
講師	名和修氏(陽明文庫文庫長)
会場	三光荘 アトリウムホール
参加費	友の会会員 1,000円 一般 1,200円

定員	100名(要予約)
一 般	1,200円
参加費	友の会会員 1,000円
定員	100名(要予約)

お茶会のご案内

林原美術館竹明庵茶会

庭園に佇む“竹明庵”において、熊倉館長が亭主をおきまして、数田宗枝先生がお水屋を勤め、2日間に渡りお茶を楽しんでいただきます。



茶室 竹明庵

美術館講座

当館館長の熊倉功夫が、日本の伝統的な食文化に関するお話をいたします。

日時	平成21年1月24日(土) 13時30分～15時
演題	「日本の食文化」
講師	熊倉功夫(林原美術館館長)
会場	岡山県立図書館 2階 多目的ホール
参加費	友の会会員 1,000円 一般 1,200円

後記 集編

今号では、この冬開催の池田治政展について、神原邦男先生にご寄稿いただきました。また初の試みとして、友の会会員の方々から、今年度前半に開催したイベントに対する感想をお寄せいただきました。今年度も既に後半に入りましたが、展覧会・各種イベントが充実したものになるよう、館員一同頑張っております。皆様のお越しをお待ちしております。(浅利)



〒700-0823 岡山市丸の内二丁目七一五
財団法人 林原美術館

TEL 086-223-1733
FAX 086-226-3089
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

「友の会」募集のご案内

当館では今年度後半も、引き続き友の会会員を募集しています(有効期限は平成21年3月31日まで)。

入会いただきますと、当館が主催する各展覧会の入場料が、企画展は無料、特別展は割引(会員並びに同伴者1名)となるほか、展覧会やイベント情報、「林原美術館NEWS」(年2回発行)などを随時ご案内いたします。ご入会の申し込み及び詳細は、当美術館までお問い合わせください。

会員の種類・年会費

個人会員	1年 3,000円(新規) 2,700円(入会継続) 3年 7,000円
法人会員	1年 30,000円(新規) 27,000円(入会継続) 3年 70,000円
有効期限	
1年会員	入会日～平成21年3月31日
3年会員	入会日～平成23年3月31日